SONY®

4-159-913-**04**(1)

デジタルサラウンドヘッドホンシステム

取扱説明書

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

MDR-DS7100

目次

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この「安全のために」の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

1年に一度は、ほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーの修理相談窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

➡

❶ **電源を切る**

❷ **ACパワーアダプターをコンセントから抜く**

❸ **お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

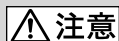
取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・漏液・発熱・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・発熱・発火・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、漏液・破裂・発熱・発火・感電などによりやけどやけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

接触禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

火災
感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電・発熱・発火**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

指定以外のACパワーアダプターを使わない

充電するときは、必ず指定のACパワーアダプターを使用してください。
破裂や電池の液漏れ、過熱などにより、火災やけが、周囲の汚損の原因となります。

禁止

火の中に入れない

禁止

分解しない

故障や感電の原因となります。内部の点検および修理はソニーの相談窓口(裏表紙)またはお買い上げ店、ソニーの修理相談窓口にご依頼ください。

分解禁止

火のそばや炎天下などで充電したり放置しない

禁止

火災
感電

下記の注意を守らないと、**火災・発熱・発火・感電**により**やけど**や**大けが**の原因となります。

道路交通法に従って安全運転する

運転者は道路交通法に従う義務があります。前方注意をおこたるなど、安全運転に反する行為は違法であり、事故やけがの原因となります。

- 運転中は本機および携帯電話を使用しない。
- 運転中に携帯電話の画面を注視しない。
- 運転中以外でも、踏切や駅のホーム、車の通る道、工事現場など、周囲の音が聞こえないと危険な場所ではヘッドホンを使わないでください。

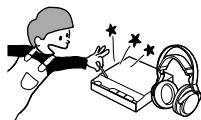
禁止

火災　感電

下記の注意を守らないと、**火災・発熱・発火・感電**により**やけど**や**大けが**の原因となります。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに使用を中止し、ACパワーアダプターをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口にご相談ください。

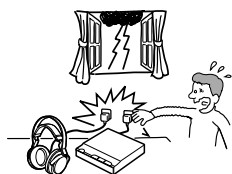
禁止

この製品を海外で使用しない

ACパワーアダプターは、日本国内専用です。
交流100 Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災･感電の原因となります。

指示

雷が鳴りだしたら、ACパワーアダプターに触れない

感電の原因となります。

接触禁止

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手でACパワーアダプターをさわらない

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

大音量で長時間続けて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

禁止

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。
ボリュームは徐々に上げましょう。
とくに、ミニディスク、CDやDATなど、雑音の少ないデジタル機器を聞くときにはご注意ください。

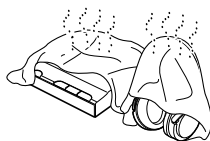
禁止

通電中のACパワーアダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

禁止

本体やACパワーアダプターを布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

禁止

かゆみなど違和感があったら使わない

使用中、肌に合わないと感じたときは使用を中止して医師またはお買い上げ店、ソニーの修理相談窓口にご相談ください。

禁止

長時間使用しないときはACパワーアダプターを抜く

長時間使用しないときは、安全のためACパワーアダプターをコンセントから抜いてください。

プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、ACパワーアダプターを抜く

ACパワーアダプターを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

本機は、国内専用です

海外では国によって電波使用制限があるため、本機を使用した場合、罰せられることがあります。

指示

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を

避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険 充電式電池が液漏れしたとき

充電式電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない

液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口(裏表紙)またはソニーの修理相談窓口にご相談ください。

液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談してください。

⚠危険 充電式電池について

- 指定された充電器以外で充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- 火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管しない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
- 液漏れした電池は使わない。

日本国内での充電式電池の廃棄について

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については
一般社団法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html
を参照してください。

主な特長

本システムはBD/DVD等のマルチチャンネルソースのサラウンド音場をワイヤレスで楽しめるデジタルサラウンドヘッドホンシステムです。
BD/DVD機器やBS ／地上デジタルチューナー、ゲーム機などと本システムのデジタルサラウンドプロセッサーを付属の光デジタル接続ケーブルで接続するだけで、大迫力のサラウンドサウンドを周囲に気兼ねすることなく楽しめます。

- マルチチャンネルスピーカーの立体的なサラウンドを再現する7.1ch VPT（Virtualphones Technology）*1
- 映画館の迫力をそのままに、大口径50mm ドライバーユニット使用
- 障害物を気にすることなく使用が可能なデジタル無線伝送方式ワイヤレスヘッドホン。非圧縮デジタル伝送によりCDと同等の音質を実現。（到達距離最大30m*2）
- 映画の聞こえづらいセリフを聞きやすくする「センターレベル調整機能」
- マルチチャンネルサラウンドのゲームに特化した音場を楽しめる「ゲームモード」搭載。正確な定位によりさらに臨場感のあるプレイを楽しめます。本機のゲームモードは、株式会社ソニー･コンピュータエンタテインメントのサウンドデザイナー監修の元、音場の作りこみを行いました。
- 他の2.4GHz帯使用機器の電波干渉を回避する「リアルタイムチャンネルセレクション」機能使用中にも常時電波を確認し、電波妨害が起きる前に自動で空きチャンネルへと音が途切れることなく移動します。
- リモコン機能をヘッドホンに搭載、離れたところからでもプロセッサーをコントロール
- 光パススルー機能搭載　光デジタル2系統（2入力2出力）
- DIGITAL IN端子に入力された信号がそのまま出力されます。お手持ちのAVシステムと同時に使用する場合、光ケーブルを接続し直すことなく本機をお楽しみ頂けます）
- 多彩なフォーマットに対応
（ドルビープロロジックIIx対応により最大7.1chのサラウンド音場を実現*3
対応メディアフォーマット:ドルビーデジタル、ドルビーデジタルサラウンドEX、
DTS、DTS-ESマトリックス、DTS-ESディスクリート、MPEG-2 AAC）

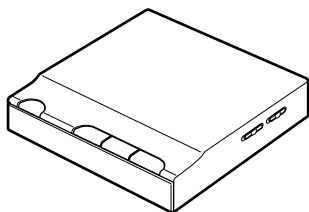
*1 Virtualphones Technologyはソニーの商標です。

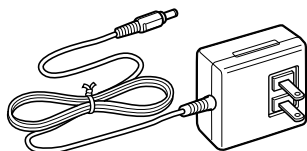
*2 到達距離は目安です。周囲環境により到達距離が変わる場合があります。

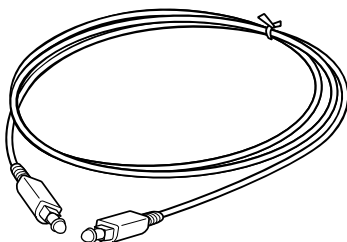
*3 本システムのプロセッサーは、ドルビーデジタルデコーダー、ドルビープロロジックIIxデコーダー、DTSデコーダー、およびMPEG-2 AACデコーダーを搭載しています。
本システムのプロセッサーはドルビーラボラトリーズおよびデジタルシアターシステムズ社からの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AACロゴ”およびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
DTS及びDTS Digital SurroundはDigital Theater Systems, Inc.の商標です。

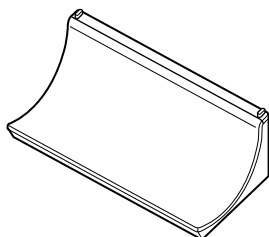
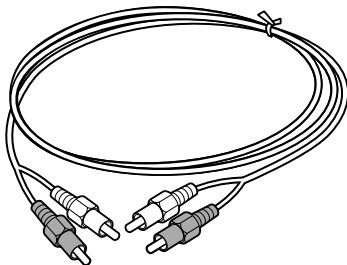
本体／付属品を確かめる

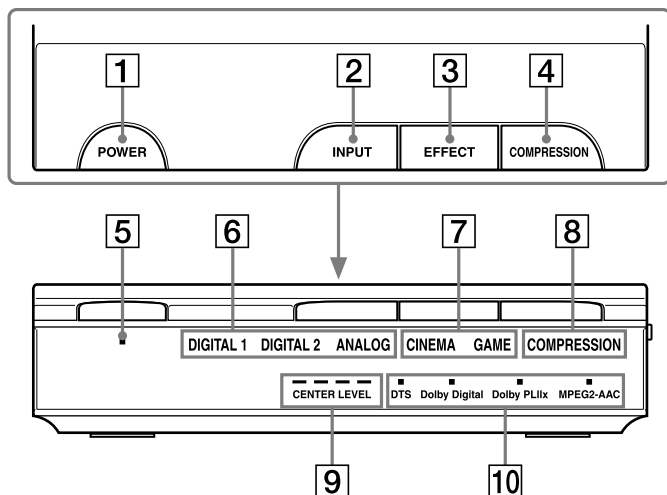
本機をお使いになる前にすべてそろっているか確かめてください。

①プロセッサー DP-RF7100（1台）

②ヘッドホン MDR-RF7100（1台）

③ACパワーアダプター（2個）

④光デジタル接続ケーブル（光角型プラグ↔光角型プラグ、1本）

ご注意

ご使用の前に先端の保護キャップを取りはずしてください。

⑤スタンド（1台）

⑥オーディオ接続コード（赤・白プラグ、1本）

各部のなまえと働き

プロセッサー上面／前面

1 POWER（パワー）スイッチ
（詳しくは18、22ページ）
プロセッサーの主電源（入／切）の切り換えに使います。

2 INPUT（インプット）ボタン
（詳しくは19ページ）
入力（DIGITAL 1/DIGITAL 2/ANALOG）の切り換えに使います。

3 EFFECT（エフェクト）ボタン
（詳しくは20ページ）
音場モード（OFF/CINEMA/GAME）の切り換えに使います。

4 COMPRESSION（コンプレション）ボタン
（詳しくは20ページ）

5 POWER（パワー）ランプ
（詳しくは18ページ）
プロセッサーの電源が入っているときに、緑色に点灯します。

6 INPUT（インプット）ランプ
（詳しくは19ページ）
入力の切り換えに合わせて点灯します。

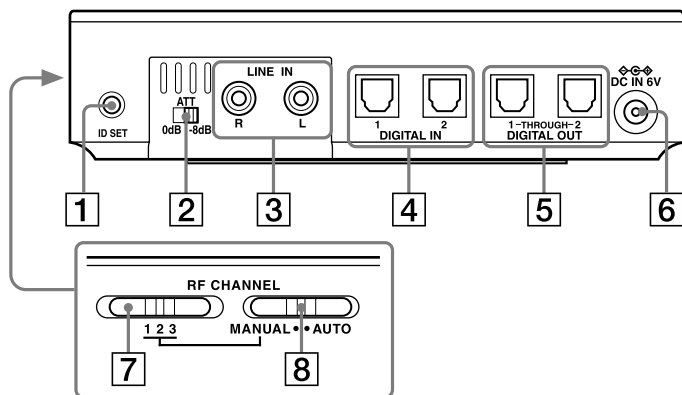
7 EFFECT（エフェクト）ランプ
（詳しくは20ページ）
音場モードの設定に合わせて点灯します。

8 COMPRESSION（コンプレション）ランプ
（詳しくは20ページ）
機能の設定が「オン」のときに点灯します。

9 CENTER（センター） LEVEL（レベル）ランプ
（詳しくは21ページ）
「センターレベル調整機能」の設定にあわせて点灯します。

10 DECODE（デコード） MODE（モード）ランプ
（詳しくは18ページ）
入力された音声信号に合わせて点灯します。

（次のページへつづく）

プロセッサー後面／側面

1 ID SET（アイディーセット）ボタン
（詳しくは25ページ）
ヘッドホンを増設するときに使用します。

2 ATT（アッテネーター）スイッチ
（詳しくは16ページ）
アナログ入力で音声が小さい場合は「0dB」に切り換えます。通常は「−8dB」にして使います。

3 LINE IN（ライン イン）(L/R)端子
（詳しくは16ページ）
ビデオデッキやテレビなど、別売りのAV機器の音声出力端子につなぎます。

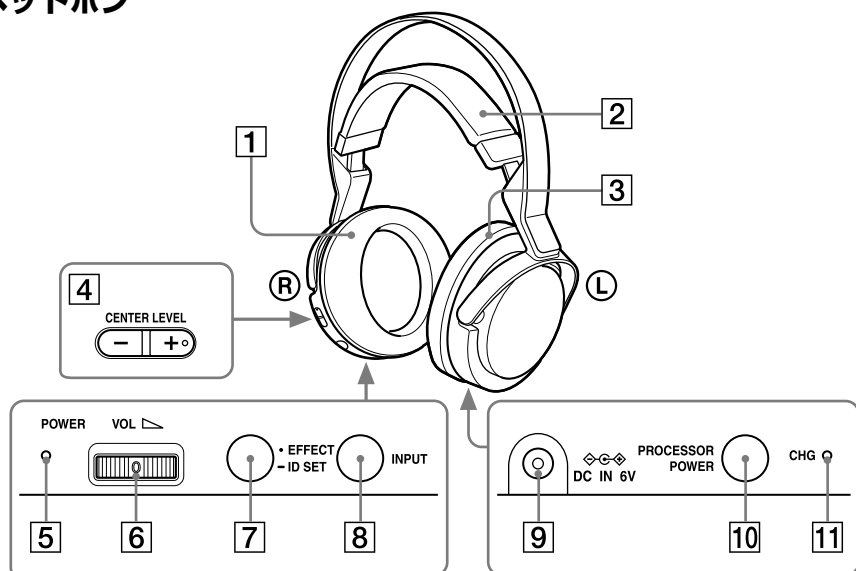
4 DIGITAL IN（デジタル イン）1・2端子
（詳しくは14ページ）
BD/DVD機器やBS ／地上デジタルチューナー、ゲーム機器など別売りのデジタル機器につなぎます。

5 DIGITAL OUT（デジタル アウト）1・2端子
（詳しくは14ページ）
DIGITAL IN端子に入力された信号が、同じ番号のDIGITAL OUT端子にそのまま出力されます。AVアンプなどに同じ信号を分岐させるときに使用します。

6 DC IN（ディーシー イン）6V端子
（詳しくは17ページ）
付属のACパワーアダプターをつなぎます。（必ず付属のACパワーアダプターをお使いください。プラグの極性など異なる製品を使うと、故障の原因となり危険です。）

7 RF CHANNEL（アールエフ チャンネル） スイッチ
（詳しくは17ページ）
周波数チャンネルを固定（MANUAL）にするとき、チャンネル（1/2/3）の切り換えに使います。

8 AUTO / MANUAL（オート / マニュアル）スイッチ
（詳しくは17ページ）
周波数チャンネル（AUTO/MANUAL）の切り換えに使います。

ヘッドホン

1 イヤーパッド(右)

2 フリーアジャストバンド
(詳しくは13、19、22ページ)
頭にかけると自動的に電源が入ります。

3 イヤーパッド(左)

4 CENTER LEVEL(センター レベル)+/−ボタン
(詳しくは21ページ)
センターレベルを調節するときに使います。

5 POWER(パワー)ランプ
(詳しくは13ページ)
充電式電池の残量があるときにフリーアジャストバンドを引き上げると、緑色に点灯します。

6 VOL(ボリューム)つまみ
(詳しくは21ページ)
音量を調節します。

7 EFFECT(エフェクト) / ID SET(アイディーセット)ボタン
(詳しくは20、25ページ)
音場モード(OFF/CINEMA/GAME)の切り換えに使います。
また、プロセッサーにヘッドホンを増設するときに使います。

8 INPUT(インプット)ボタン
(詳しくは19ページ)
プロセッサーの入力(DIGITAL 1/DIGITAL 2/ANALOG)の切り換えに使います。

9 DC IN(ディーシー イン) 6V端子
(詳しくは12ページ)
付属のACパワーアダプターをつなぎます。
(必ず付属のACパワーアダプターをお使いください。プラグの極性など異なる製品を使うと、故障の原因となり危険です。)

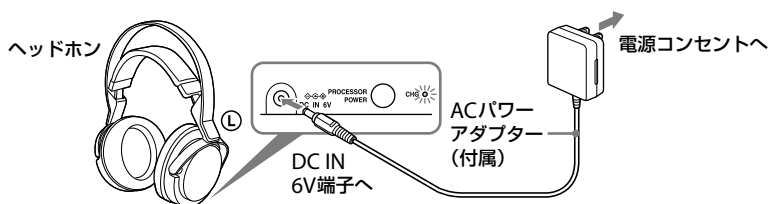
10 PROCESSOR(プロセッサー) POWER(パワー)ボタン
(詳しくは22ページ)
プロセッサーの電源(入/スタンバイ)の切り換えに使います。

11 CHG(チャージ)ランプ
(詳しくは12ページ)
充電中は赤く点灯します。

ヘッドホンを充電する

本システムのヘッドホンはリチウムイオン充電式電池を内蔵しています。充電してからお使いください。

充電する

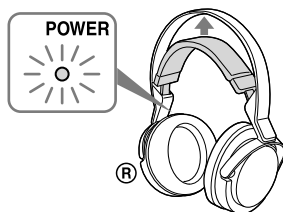
付属のACパワーアダプターを、ヘッドホンのDC IN 6V端子と電源コンセントに接続します。ヘッドホンのCHGランプが赤く点灯し、充電が始まります。
約3時間後に充電が完了し、CHGランプが消灯します。
充電が完了したら、ACパワーアダプターをはずします。

ご注意
充電は0 ℃～40 ℃の環境で行なってください。この範囲を超えると満充電されない場合があります。

充電時間の目安と持続時間

充電時間	持続時間*1
約3時間*2	約13時間*3
約30分*4	約3時間*3

*1 1 kHz,1 mW+1 mW出力時
*2 電池残量がない状態から、満充電するのにかかる時間
*3 周囲の温度や使用状態により、上記の持続時間と異なる場合があります。
*4 電池残量がない状態からの時間

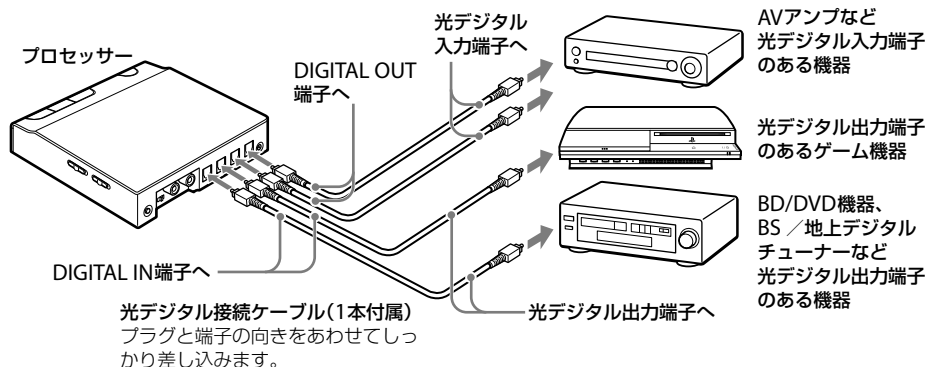
充電式電池の残量を確認する

フリーアジャストバンドを引き、右ヘッドホンのPOWERランプが緑色に点灯すれば使用できます。POWERランプが点灯しないときや、ランプが暗い、音が途切れたりするときは、充電してください。

ご注意

- 長い間使わなかったときは、充電式電池の持続時間が短くなることがあります。何回か充放電を繰り返すと、充分に充電できるようになります。
- 充電式電池の持続時間が通常の半分ぐらいに低下した場合は、充電式電池の寿命と考えられます。充電式電池の交換については、お近くのソニーの修理相談窓口にご相談ください。

ヘッドホンシステムをつなぐ

プロセッサーとデジタル機器をつなぐ

付属の光デジタル接続ケーブル(1本)を使って、BD/DVD機器やBS ／地上デジタルチューナー、ゲーム機器など*の光デジタル出力端子と、プロセッサーのDIGITAL IN端子をつないでください。
また、プロセッサーを通じて、DIGITAL IN端子につないだ機器(BD/DVD機器など)から入力された信号を、そのままお手持ちのAVアンプなどに出力することができます(光パススルー機能)。光パススルーするには、光デジタルケーブル(別売り)が必要です。
本機のプロセッサーには、DIGITAL IN端子とDIGITAL OUT端子が2つずつあります。背面の端子に書かれている「DIGITAL IN」と「DIGITAL OUT」の数字を合わせるように各機器の接続をしてください。

ご注意

- 光デジタル接続ケーブルは非常に精密に作られています。プラグを抜き差しするときは丁寧にお取り扱いください。
- 本機のデジタル入力信号は48 kHz/44.1 kHzのサンプリング周波数のみに対応しています。
  本機のDIGITAL IN端子につなぐ機器のデジタル出力信号を、48 kHz/44.1 kHzに設定してお使い下さい。
  その他(32 kHz/96 kHzなど)のサンプリング周波数で入力した場合、ノイズが発生したり、音が出ないことがありますのでご注意下さい。この場合は、LINE IN (L/R) 端子にオーディオ接続コードをつないで、アナログ入力でお楽しみください。
- DIGITAL IN端子につないだ機器側で光デジタル出力の設定が必要な場合があります。接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- プロセッサーに電源をつながないと、DIGITAL OUT端子から信号は出力されません。

* パソコンの光デジタル出力端子への接続は動作保証いたしません。

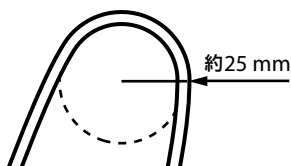
接続コード(別売り)

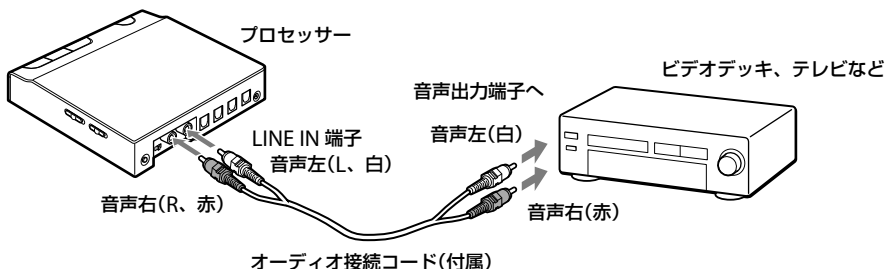
ポータブルBD/DVD機器やポータブルCD機器などの光ミニデジタル出力端子からDIGITAL IN端子へつなぐときは、接続コード POC-5AB(光ミニプラグ ⟷ 光角型プラグ)などをお使いください。

光デジタルセレクター(別売り)

複数のデジタル機器を接続したいときは、光デジタルセレクター SB-RX100P(入力4系統、出力3系統)をお使いください。

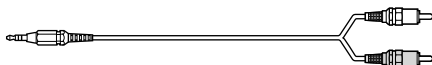
光デジタル接続ケーブルについてのご注意

- 光デジタル接続ケーブルには落下物などによる衝撃を与えないでください。
- 光デジタル接続ケーブルの抜き差しは、プラグを持って、丁寧に行なってください。
- 光デジタル接続ケーブルの先端が汚れると性能が低下しますので、汚さないようにしてください。
- 保管の際は、プラグ先端にキャップを付けて、光デジタル接続ケーブルを折り曲げすぎないようにしてください。

プロセッサーとアナログ機器をつなぐ

付属のオーディオ接続コードを使って、ビデオデッキやテレビなどの音声出力端子と、プロセッサーのLINE IN（L/R）端子をつないでください。

ご注意

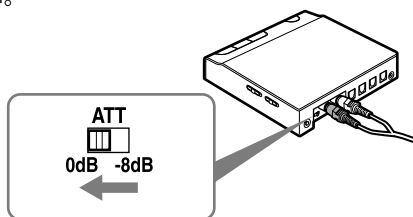
DTS音声で収録されたBD/DVDを再生する場合、BD/DVD機器を本機のLINE IN（L/R）端子に接続していると音が出ないことがあります。この場合はDIGITAL IN端子に接続してください。

接続コード（別売り）

ヘッドホン端子などのステレオミニジャックからLINE IN（L/R）端子へつなぐときは、接続コードRK-G129（ステレオミニプラグ ↔ ピンプラグ×2）などをお使いください。

この場合、つないだ機器のボリュームを中ぐらいにしてお使いください。つないだ機器のボリュームが低く設定されていると、ノイズが発生することがあります。

その他の接続コード（別売り）については、「主な仕様: 推奨アクセサリー」（33ページ）をご覧ください。

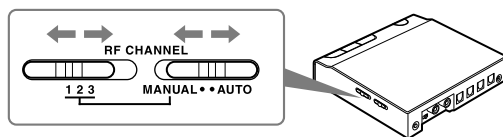
ATTスイッチについて

アナログ機器の音声が小さいときは、プロセッサー後面にあるATTスイッチを「0dB」に切り換えてお使いください。

位置	接続している機器
0dB	テレビやポータブル機器など、出力レベルの低いもの
–8dB（出荷時の設定）	その他の機器

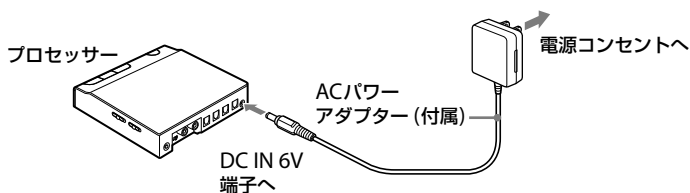
ご注意

- ATTスイッチは、必ず音量を下げてから切り換えてください。
- アナログ機器の音声がひずむ（と同時にノイズが発生する）ときは、ATTスイッチを「–8dB」に切り換えてください。

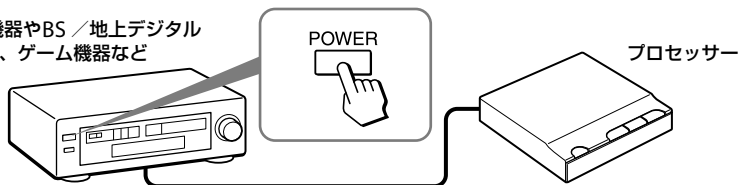
周波数チャンネルを設定する

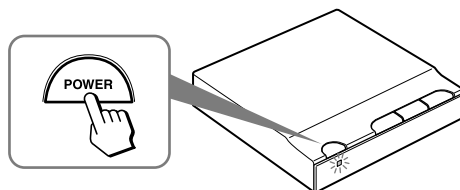
本システムは、2.4 GHz帯の無線周波数に含まれる３つのチャンネルのなかから、いずれかを使用します。AUTO / MANUALスイッチとRF CHANNELスイッチで、使用する周波数チャンネルの設定を切り換えてください。

AUTO / MANUALスイッチの位置	使用する周波数チャンネル
AUTO（出荷時の設定）	プロセッサーが最適なチャンネルを自動的に検出します。RF CHANNELスイッチの位置は、動作に影響しません。
MANUAL	RF CHANNELスイッチで切り換えたチャンネル（1/2/3）に固定します。

プロセッサーに電源をつなぐ

付属のACパワーアダプターを、プロセッサーのDC IN 6V端子と電源コンセントに接続します。

つないだ機器の音声を聞く

操作に入る前に、必ず「ヘッドホンシステムをつなぐ」（14～17ページ）をご覧のうえ、正しい接続を行なってください。

1 **音声を聞く機器の電源を入れる。**

2 **プロセッサーの電源を入れる。**

プロセッサーのPOWERスイッチを押して、主電源を入れます。
プロセッサーのPOWERランプが緑色に点滅し、音声送信の準備ができると点灯に変わります。

現在の設定に合わせて、EFFECTランプとINPUTランプ、DECODE MODEランプがそれぞれ点灯します。

DECODE MODEランプについて

入力された音声信号の記録方式をプロセッサーが自動判別して点灯します。ドルビーデジタル／ DTS ／ MPEG-2 AACなどの音声切り換えは、接続した機器側（BD/DVD機器やBS ／地上デジタルチューナー、ゲーム機器など）で行なってください。

- Dolby Digital：ドルビーデジタルフォーマットで記録された信号
- Dolby PLIIx：アナログ入力信号、デジタル入力のPCM信号、ドルビーデジタルの2チャンネル信号およびステレオサラウンドチャンネルを含む信号、またはMPEG-2 AACの2チャンネル信号およびステレオサラウンドチャンネルを含む信号がドルビープロロジックIIx処理された場合（音場モード「OFF」を選んでいる場合はドルビープロロジックIIx処理されません）
- DTS：DTSフォーマットで記録された信号
- MPEG-2 AAC：MPEG-2 AACフォーマットで記録された信号

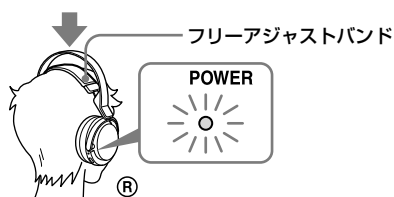
ご注意

DIGITAL IN端子につないだ機器が、早送りや巻き戻しなど「再生」以外の状態では、DECODE MODEランプが正確に点灯しない場合があります。その場合は、「再生」状態にするとDECODE MODEランプが正確に点灯します。

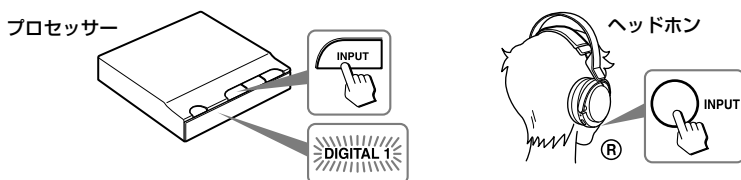
3 ヘッドホンをかける。

右イヤーパッドを右耳に、左イヤーパッドを左耳にあわせ、フリーアジャストバンドが頭の上に付くようにヘッドホンを垂直にかけます。ヘッドホンをかけると、自動的に電源が入り、右イヤーパッドのPOWERランプが緑色に点灯します。（オートパワーオン機能）

ヒント

ヘッドホンのご使用中に充電式電池の残量がなくなったときは、「ヘッドホンを充電する」（12ページ）の手順でACパワーアダプターをヘッドホンのDC IN 6V端子と電源コンセントにつなぎ、ヘッドホンをかけてください。充電をしながらヘッドホンを使うことができます。

ご注意

ヘッドホンは、電波が届く範囲（23ページ）でお使いください。

4 プロセッサーまたはヘッドホンのINPUTボタンで、音声を聞く機器を選ぶ。

点灯するINPUTランプ	聞こえる音源
DIGITAL 1	DIGITAL IN 1端子につないだ機器の音声
DIGITAL 2	DIGITAL IN 2端子につないだ機器の音声
ANALOG	LINE IN (L/R)端子につないだ機器の音声

ご注意

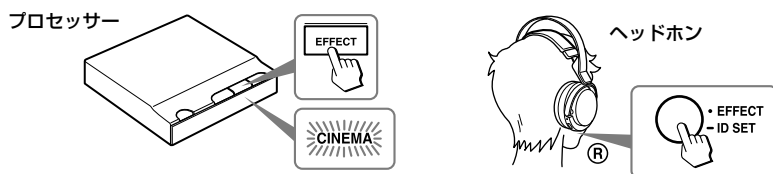
二重音声（MAIN/SUB）の音源を視聴するときは、LINE IN（L/R）端子に接続して、プレーヤーやテレビなどの方で聞きたい音声を選んでください。

5 手順4で選んだ機器の再生を始める。

（次のページへつづく）

6 好みの音場モードを選ぶ。

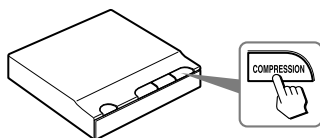
EFFECT機能

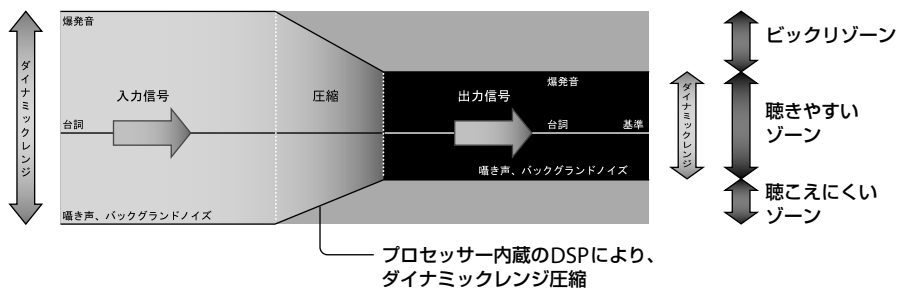
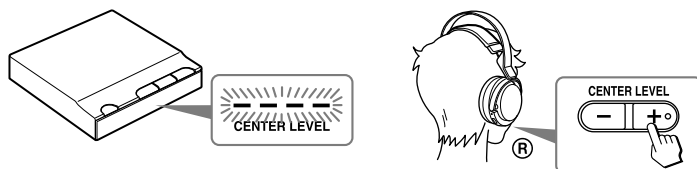
プロセッサーのEFFECTボタンまたはヘッドホンのEFFECT / ID SETボタンを押して音場モードを選びます。

点灯するEFFECTランプ	音場モードと適した入力音源
消灯（オフ）	通常のヘッドホン再生。
CINEMA	包まれ感や、各チャンネルの自然なつながり、自然な音質（特に台詞）を重視した設定。 音の良い最新の映画館のような適度な広さをもつサラウンド音場を楽しむことができます。 映画に適しています。
GAME	くっきりとした音像定位や、明確な方向感の再現を重視した設定。 マルチチャンネルサラウンドのゲームなどで臨場感あふれるプレイを楽しむことができます。 ゲーム（特にマルチチャンネル音源）に適しています。

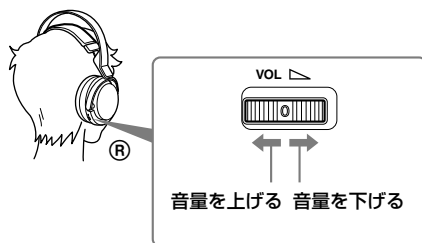
ご注意

入力された音声信号によっては、音場モードによって再生音量の違いが生じる場合があります。

COMPRESSION機能

プロセッサーのCOMPRESSIONボタンを押して、機能のオン/オフを切り替えます。

ランプの状態	再生音の効果
消灯（オフ）	EFFECT機能で選んだ音場モードになります。
点灯（オン）	EFFECT機能で選んだ音場モード（消灯時を含む）において、爆発音のような大きな音を小さく、会話などの小さな音を大きくすることにより全体的に聞きやすくします。 映画やクラシック音楽など、ダイナミックレンジの広い音声信号に対して効果的です。

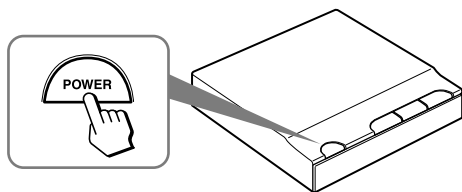
コンプレッション動作イメージ図

センターレベル調整機能

映画のセリフやスポーツ番組の解説などの音量レベルを調節します。ヘッドホンのCENTER LEVEL +/－ボタンを使って、お好みのレベルに設定してください。レベルは４段階あります。

7 音量を調節する。

ご注意

映画の音声を聞く場合、静かなシーンで音量を上げすぎて、急な爆発シーンなどで耳を痛めないようご注意ください。

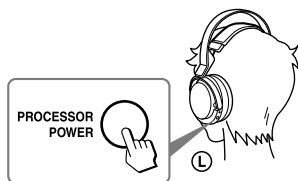
（次のページへつづく）

8 使い終わったら、プロセッサーの電源を切る。

プロセッサーのPOWERスイッチを押して、主電源を切ります。

ご注意

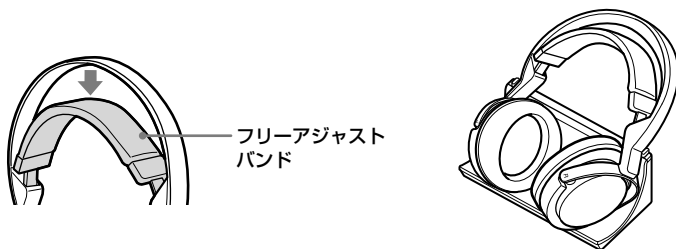
ヘッドホンをはずす前にプロセッサーからACパワーアダプターをはずすと、雑音が入ることがあります。

ヒント

ヘッドホンのPROCESSOR POWERボタンを押すと、プロセッサーのPOWERランプの色が赤に変わり、スタンバイ状態になります。プロセッサーを一時的に使わないときなどにお使いください。

スタンバイ状態からプロセッサーの電源を入れるときは、ヘッドホンをかけた状態でPROCESSOR POWERボタンを再度押すか、プロセッサーのPOWERスイッチを押して一度主電源を切り、再度入れ直します。

9 ヘッドホンの電源を切る。

ヘッドホンをはずすと、自動的にヘッドホンの電源が切れます。（オートパワーオフ機能）

ヘッドホンをはずしたら、スタンドの上に乗せて保管します。

ご注意

お使いにならないときは、オートパワーオン機能が働かないように、フリーアジャストバンドが下がった状態でヘッドホンを保管してください。

各モード間の移行時間について

プロセッサーの各ボタンまたはスイッチを操作してから新しいモードに移行するときに、移行時間が異なる場合があります。これはモード移行によるシステム制御の違いによるものです。

ヘッドホンからビープ音が聞こえるときは

プロセッサーの電源が入っていないか、電波の届く範囲から離れてヘッドホンの受信状態が悪くなると「ピッピッピッ…」というビープ音が聞こえます。ビープ音が聞こえたらプロセッサーの電源を入れるか、プロセッサーに近づいて電波の届く範囲でお使いください。
プロセッサーに電源が入っていて、プロセッサーに近づいてもビープ音が止まらない場合は、2.4 GHz帯の無線周波数を使用する無線機器や電子レンジから発生する電磁波などの影響を受けている可能性が考えられます。以下の対応方法をお試しください。

- 本システムの周波数チャンネルの設定（17ページ）を「MANUAL」にしてお使いのときは、RF CHANNELスイッチで影響の少ないチャンネルに切り換えるか、AUTO / MANUALスイッチを「AUTO」に切り換える。
- プロセッサーの位置を変える。
- 2.4 GHz帯の無線周波数を使用する無線機器や電子レンジなど、影響を与えている機器の位置を変える。

電波の届く範囲について

プロセッサーからの電波が届く範囲は、最大で約30 mです。
ご使用中に電波の届く範囲から離れたり、電波の状態が悪くなったりすると、音がとぎれる場合があります。

ご注意

- このシステムは2.4 GHz帯の周波数を使用しているため、障害物で電波がさえぎられた場合は音がとぎれることがあります。この現象は電波の特性によるもので、故障ではありません。
- プロセッサーの位置やお使いになる場所の状況により聞こえかたが異なります。なるべく聞こえやすい位置でお使いになることをおすすめします。
- 他の2.4 GHz帯の周波数を使用する無線機器や電子レンジなどを併用すると音声がとぎれることがあります。

DTSについて

- DTS音声で収録されたBD/DVDを再生するには、DTSに対応したBD/DVD機器が必要です。（詳しくはお使いのBD/DVD機器の取扱説明書をご覧ください。）
- DTSフォーマットのCDで、早送り時や巻き戻し時などにノイズが発生することがありますが、故障ではありません。
- BD/DVD機器のDTSデジタル出力設定が「OFF」や「切」になっている場合は、BD/DVDメニューでDTS出力を選択しても音が出ないことがあります。

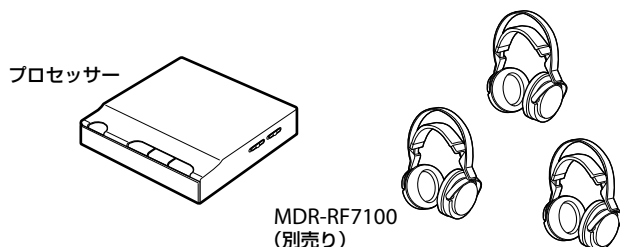
（次のページへつづく）

音の特性について

- 音楽CDのように映像を伴わないソースの場合、音の定位がわかりにくい場合があります。
- 本システムは人間の平均的なHRTF*（頭部伝達関数）をシミュレートしていますが、HRTFには個人差があるため効果の感じかたは人により異なる場合があります。

* Head Related Transfer Functionの略です。

ヘッドホンを増設して楽しむ

本システムでは、別売りの専用ワイヤレスヘッドホン（MDR-RF7100）を増設することで、ワイヤレスの音声を複数の人で同時に楽しむことができます。
受信エリア内であれば、ワイヤレスヘッドホンを何台でも使用できます。

ご注意

本システムは、独自の2.4 GHzデジタル伝送方式を採用しているため、専用ワイヤレスヘッドホン以外は使用できません。

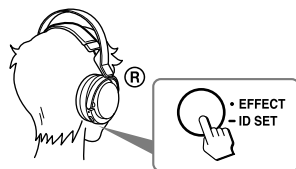
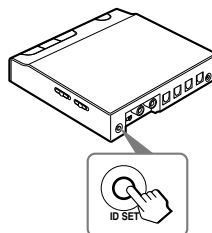
ヘッドホンを増設するときは

プロセッサーには固有のIDが設定されています。別売りの専用ワイヤレスヘッドホン（MDR-RF7100）を増設する場合は、プロセッサーに設定されているIDを増設するヘッドホンに登録しなければ使用することができません。必ず登録作業を行なってください。

1 **プロセッサーの電源を入れる。**

2 **増設するヘッドホンをかける。**
ヘッドホンの電源が入ります。

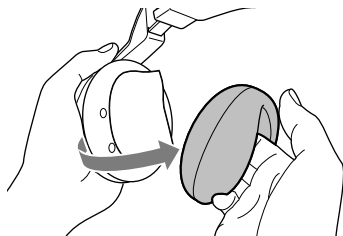
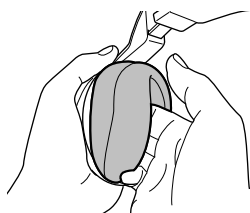
ご注意
内蔵の充電式電池を事前に充電するか、ヘッドホンに電源をつないでから登録作業を行なってください。

3 **ヘッドホンのビープ音が変わるまでEFFECT/ID SETボタンを押し続ける。**
ヘッドホンからのビープ音の聞こえかたが変わり、ヘッドホンがID登録待機状態になります。

4 **プロセッサーのID SETボタンを押す。**
プロセッサーからIDが送られます。
増設したヘッドホンにIDが登録されたらビープ音が「ピー」と変化し、使用可能になります。

ご注意

- ヘッドホンのID登録待機状態は約30秒です。
  この間にプロセッサーのID SETボタンを押してください。
- 複数台を同時にID登録作業することはできません。1台ずつ登録してください。

イヤーパッドを交換する

イヤーパッドは消耗品です。汚れたり破損した場合は、下記の手順を参照してイヤーパッドを交換してください。このイヤーパッドは市販されていませんので、ソニーの相談窓口、またはお買い上げ店にご相談ください。

1 古くなったイヤーパッドをはずす。

2 イヤーパッドをヘッドホンの外周に合わせるようにはめ込む。

本機を廃棄する

機器に内蔵されている充電式電池はリサイクルできます。この充電式電池の取りはずしはお客様自身では行わず、「使い方相談窓口」にご相談ください。（「使い方相談窓口」の連絡先は本取扱説明書内の「保証書とアフターサービス」に記載されています。）

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう一度点検してください。それでも正確に動作しないときは、お買い上げ店または、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

症状	原因と対応のしかた
音が出ない	➡ プロセッサーとAV機器の接続を確認する。 ➡ デジタル機器の光デジタル出力端子とプロセッサーのDIGITAL OUT端子をつないでいる。 • プロセッサーのDIGITAL IN端子につなぎ直す。 ➡ INPUTボタンで「DIGITAL 1（または2）」を選択している場合は、つないだデジタル機器の光デジタル出力設定が「OFF」や「切」になっていないか確認する。 ➡ プロセッサーにつないだAV機器の電源を入れ、再生を始める。 ➡ プロセッサーの電源を入れる。 ➡ INPUTボタンで、音声を聞きたい機器を正しく選んでいるか確認する。 ➡ プロセッサーのLINE IN (L/R)端子にAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。 ➡ ヘッドホンを頭の上から垂直にかけ直す。 ➡ ヘッドホンの音量を上げる。 ➡ ヘッドホンの充電式電池が消耗しているので充電をする。充電をしてもヘッドホンのPOWERランプが点灯しない場合は、お近くのソニーの修理相談窓口にご相談ください。 ➡ DTSに対応していないBD/DVD機器でDTS音声トラックを再生している。 • DTSに対応したBD/DVD機器を使用する。またはDolby Digital やPCM音声トラックを選択する。 ➡ BD/DVD機器（ゲーム機を含む）のDTSデジタル出力設定が「OFF」や「切」の状態で、DTS音声で収録されたBD/DVDを再生している。 • お使いのBD/DVD機器の取扱説明書をご覧になり、DTSデジタル出力設定を「ON」や「入」に切り換えてください。 ➡ BD/DVD機器（ゲーム機を含む）を本機のLINE IN (L/R)端子に接続している状態で、DTS音声で収録されたBD/DVDを再生している。 • DIGITAL IN端子に接続してください。（BD/DVD機器をLINE IN (L/R)端子に接続しているときは、音声が出力されない場合があります。） ➡ 増設したヘッドホンにプロセッサーのIDが設定されていない。 • ヘッドホンにプロセッサーのIDを登録する（25ページ）。 ➡ 本機に接続している機器の出力信号のサンプリング周波数を48 kHz/44.1 kHzに設定する。
音がひずむ、とぎれとぎれになる（同時にノイズが出る場合もある）	➡ ヘッドホンの充電式電池が消耗しているので充電をする。充電をしてもヘッドホンのPOWERランプが点灯しない場合は、お近くのソニーの修理相談窓口にご相談ください。 ➡ プロセッサーとヘッドホンの周辺に2.4 GHz帯の周波数を使用する無線や電子レンジなどの機器がないか確認する。 ➡ プロセッサーの位置を変える。 ➡ INPUTボタンで「ANALOG」を選択したときに症状が出る場合は、プロセッサーのATTスイッチを「–8dB」に切り換える。 ➡ プロセッサーのLINE IN（L/R）端子にAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を下げる。 ➡ DTS音源視聴時は、音場モードを「CINEMA」または「GAME」に切り換える（20ページ）。 ➡ 本システムの周波数チャンネルの設定を「AUTO」に設定してお使いのときは、自動的にチャンネルが切り替わったときに音が途切れる場合がありますが、故障ではありません。 ➡ 本機に接続している機器の出力信号のサンプリング周波数を48 kHz/44.1 kHzに設定する。

症状	原因と対応のしかた
音が小さい	➡ INPUTボタンで「ANALOG」を選択したときに症状が出る場合は、プロセッサーのATTスイッチを「0dB」に切り換える。 ➡ プロセッサーのLINE IN(L/R)端子にAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。 ➡ ヘッドホンの音量を上げる。
雑音が多い	➡ プロセッサーとヘッドホンの周辺に2.4 GHz帯の周波数を使用する無線や電子レンジなどの機器がないか確認する。 ➡ プロセッサーのLINE IN(L/R)端子にAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。 ➡ ヘッドホンの充電式電池が消耗しているので充電をする。充電をしてもヘッドホンのPOWERランプが点灯しない場合は、お近くのソニーの修理相談窓口にご相談ください。
サラウンド効果が得られない	➡ 音場モードを「CINEMA」または「GAME」に切り換える(20ページ)。 ➡ 再生中の音声がマルチチャンネルの信号になっていない。 • モノラル音源の場合、サラウンド効果が得られません。
Dolby Digital ランプが点灯しない	➡ BD/DVD機器(ゲーム機を含む)の音声デジタル出力の設定が「PCM」になっている。 • お使いのBD/DVD機器の取扱説明書をご覧になり、ドルビーデジタルデコーダーを内蔵した機器を使用するときの設定(「ドルビーデジタル/ PCM」、「Dolby Digital」など)に切り換えてください。 ➡ ドルビーデジタルフォーマットで記録されていない信号を再生している。
Dolby PLIIxランプが点灯しない	➡ プロセッサーの音場モードが「CINEMA」または「GAME」になっていない。 ➡ アナログ入力信号、デジタル入力のPCM信号、ドルビーデジタルの2チャンネル信号およびステレオサラウンドチャンネルを含む信号、またはMPEG-2 AACの2チャンネル信号およびステレオサラウンドチャンネルを含む信号が入力されていない。
Dolby PLIIxランプが点灯してしまう	➡ プロセッサーの音場モードが「CINEMA」または「GAME」になっている。 ➡ アナログ入力信号、デジタル入力のPCM信号、ドルビーデジタルの2チャンネル信号およびステレオサラウンドチャンネルを含む信号、またはMPEG-2 AACの2チャンネル信号およびステレオサラウンドチャンネルを含む信号が入力されている。
DTSランプが点灯しない	➡ BD/DVD機器(ゲーム機を含む)のDTSデジタル出力設定が「OFF」や「切」になっている。 • お使いのBD/DVD機器の取扱説明書をご覧になり、DTSデジタル出力設定を「ON」や「入」に切り換えてください。 ➡ DTSフォーマットで記録されていない信号を再生している。 ➡ 再生中のチャプターの音声がDTSになっていない。 ➡ BD/DVD機器がDTSに対応していない。 • DTSに対応したBD/DVD機器をお使いください。
MPEG-2 AAC ランプが点灯しない	➡ BS /地上デジタルチューナーの音声デジタル出力の設定が「PCM」になっている。 • BS /地上デジタルチューナーに付属の説明書をご覧になり、MPEG-2 AAC信号が出力されるように設定を変更してください。
充電できない	➡ ヘッドホンとACパワーアダプター、電源コンセントの接続を確認する。 ➡ 充電式電池に劣化などの異常がある。 • お買い上げ店またはお近くのソニーの修理相談窓口にご相談ください。
CHG(充電)ランプが点滅する	➡ 充電式電池に劣化などの異常がある。 • お買い上げ店またはお近くのソニーの修理相談窓口にご相談ください。
DIGITAL OUT端子から信号が出力されない	➡ プロセッサーに電源がつながれていない。 • プロセッサーに電源をつないでください。 ➡ DIGITAL IN端子につながれたデジタル機器が再生されていない。 • つないだ機器を再生してください。 ➡ デジタル機器をつないだDIGITAL IN端子の番号と、出力先の機器をつないだDIGITAL OUT端子の番号が一致していない。 • 端子の番号が一致するようにつなぎ直す。

(次のページへつづく)

症状	原因と対応のしかた
デジタル入力時、二重音声の選択ができない。（MAIN、SUBの音声が同時に聞こえる）	➡ LINE IN（L/R）端子にアナログ音声出力をつないで、つないだ機器の方で聞きたい音を選んでください。
警告音が鳴る「ピッピッピッ…」	➡ ヘッドホンがプロセッサーからの電波を受信できない。 • 電波の届く範囲に移動する。 • プロセッサーの電源を入れる。 • プロセッサーとACパワーアダプター、電源コンセントの接続を確認する。 • 周波数チャンネルの設定を「MANUAL」にしてお使いのときは、RF CHANNELスイッチで影響の少ないチャンネルに切り換えるか、AUTO / MANUALスイッチを「AUTO」に切り換える。（17ページ） • プロセッサーとヘッドホンの周辺に2.4 GHz帯の周波数を使用する無線や電子レンジなどの機器がないか確認する。 • プロセッサーの位置を変える。

使用上のご注意

取り扱いについて

- プロセッサー、ヘッドホンを落としたりぶつけたりなど強いショックを与えないでください。故障の原因となります。
- 各機器を分解したり、開けたりしないでください。

設置について

次のような場所には置かないでください。

– 直射日光があたる場所や暖房器具の近くなど温度が非常に高い所。
– ほこりの多い所。
– ぐらついた台の上や傾いた所。
– 振動の多い所。
– 風呂場など、湿気の多い所。

付属のACパワーアダプターについて

- 必ず付属のACパワーアダプター（極性統一形プラグ･JEITA規格）をお使いください。プラグの極性など異なる製品を使うと、故障の原因になります。

極性統一形プラグ

- 電圧やプラグ極性が同じACパワーアダプターでも、電流容量その他の要因で故障の原因になります。必ず付属のACパワーアダプターをご使用ください。
- ACパワーアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。
- ACパワーアダプターをご使用時は、以下の点にご注意ください。
  – ACパワーアダプターを本棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に設置しないでください。
  – 火災や感電の危険をさけるために、ACパワーアダプターを水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、ACパワーアダプターの上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。
- 長い間使わないときは、ACパワーアダプターをコンセントから抜いてください。コンセントから抜くときは、コードを引っぱらずに必ずACパワーアダプター本体をつかんで抜いてください。

ヘッドホンについて

まわりの人のことを考えて

ヘッドホンは、音量を上げすぎると音が外にもれます。音量を上げすぎて、まわりの人の迷惑にならないように気をつけましょう。
雑音の多いところでは音量を上げてしまいがちですが、ヘッドホンで聞くときはいつも、呼びかけられて返事ができるくらいの音量を目安にしてください。

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解/改造すること
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと

周波数について

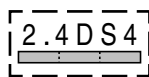
本機は2.4 GHz帯の2.400 GHzから
2.4835 GHzまで使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

（次のページへつづく）

保証書とアフターサービス

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS変調方式を採用し、与干渉距離は40 mです。

お手入れのしかた

機器の外装の汚れは、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、うすい中性洗剤溶液でしめらせた布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げをいためるので使わないでください。

異常や不具合が起きたら

- 万一異常や不具合が起きたり、異物が中に入ったときは、すぐに電源を切り、お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口にご相談ください。
- お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口にお持ちになる際は、必ずヘッドホン、プロセッサー、ACパワーアダプターを一緒にお持ちください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口、またはお買い上げ店にご相談ください。修理をご依頼の際は、付属のACパワーアダプターを本体と一緒にお持ちください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではデジタルサラウンドヘッドホンシステムの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

主な仕様

プロセッサー　DP-RF7100

デコーダー機能
ドルビーデジタル
ドルビープロロジックIIx
DTS
DTS-ES
MPEG-2 AAC

バーチャルサラウンド機能
OFF
CINEMA
GAME

コンプレッション機能
OFF
ON

センターレベル調整機能
4段階

変調方式　DSSS

搬送波周波数　CH1：2.41185 GHz
CH2：2.43785 GHz
CH3：2.46385 GHz

到達距離　見通し最長約30 m

伝送周波数帯域
12～24,000 Hz（デジタル入力時、サンプリング周波数48 kHz時）

ひずみ率　1 %以下（1 kHz）

音声入力　光デジタル入力（角型）×2系統
アナログ入力（ピンジャック、右／左）×1系統

音声出力　光デジタル出力（角形）×2

電源　DC 6 V（付属のACパワーアダプターを使用）

最大外形寸法　約146×36×147 mm
（幅／高さ／奥行き）

質量　約280 g

ヘッドホン　MDR-RF7100

再生周波数帯域
5～25,000 Hz

電源　内蔵リチウムイオン充電式電池

質量　約325 g

付属品

ACパワーアダプター（6 V）（2）
光デジタル接続ケーブル
（光角型プラグ ←→ 光角型プラグ、1.5 m）（1）
オーディオ接続コード
（赤・白プラグ、1.5 m）（1）
スタンド（1）
取扱説明書（本書）（1）
プロダクトインフォメーション（1）
保証書（1）
その他印刷物一式

推奨アクセサリー

接続コード　RK-C310（1.0 m）、
RK-C315（1.5 m）、
RK-C320（2.0 m）、
RK-C330（3.0 m）（ピンプラグ×2 ←→ ピンプラグ×2）、
RK-G129（1.5 m）（ステレオミニプラグ ←→ ピンプラグ×2）

光デジタルセレクター
SB-RX100P

光デジタル接続ケーブル
POC-5A（0.5 m）、
POC-10A（1.0 m）、
POC-15A（1.5 m）、
POC-20A（2.0 m）、
POC-30A（3.0 m）、
POC-5DSA（0.5 m）、
POC-10DSA（1.0 m）、
POC-20DSA（2.0 m）、
POC-30DSA（3.0 m）
（光角型プラグ ←→ 光角型プラグ）、
POC-5AB（0.5 m）、
POC-10AB（1.0 m）、
POC-15AB（1.5 m）、
POC-20AB（2.0 m）、
POC-30AB（3.0 m）
（光角型プラグ ←→ 光ミニプラグ）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

製品カスタマー登録のおすすめ

製品をご購入いただいたお客様のサポートの充実を図るため、カスタマー登録をおすすめしております。
詳しくはウェブ上の案内をご覧ください。
http://www.sony.co.jp/avp-regi/

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

http://www.sony.jp/support/

使い方相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・ **0120-333-020**
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ **0466-31-2511**

修理相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・ **0120-222-330**
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ **0466-31-2531**

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） **0120-333-389**

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「309」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Malaysia